

大田区景観審議会／専門部会の視察

10/11(月) 10:00-12:00

大田区景観計画重点地区指定に向けて、大田区景観審議会専門部会の委員と大森八景坂地区まちづくり協議会推進委員会と一緒にまちあるきをしながら、大森八景坂地区の歴史と景観を共有し、意見交換を行いました。

- 参加者
- ・大田区景観審議会専門部会委員 | 野原会長、杉田委員、杉山委員、二井委員
 - ・大森八景坂地区まちづくり協議会推進委員会
 - ・大田区 | 都市計画課、鉄道・都市づくり課
 - ・トーニチコンサルタント、石塚計画デザイン事務所



意見交換の内容（抜粋）

①時間の蓄積、歴史の厚みがある。特徴あるまち

- ・歴史の厚みが違うと感じた。地形や自然環境を生かしたい
- ・自然豊かな地域で、崖線のある地形がよく見える。
- ・石垣が特徴的。大谷石などの素材が使われているので、生かしたい
- ・駅を降りて神社が正面にあり、特徴あるまちに来たと感じる。
- ・街路樹だけでなく民地内にもしっかりした樹木が残っていて、地域の文化となっている。

②奥を感じる景観を実現したい

- ・建物の高層部が連続すると閉塞感があり景観としては良くない。棟の間に隙間を設けて視線の抜けを確保したり、地形を生かした奥が感じられるまちづくりにすることが大切。
- ・八景坂と山王が地形的に一体なことが分かるように、断面で整理する必要がある。
- ・高低差があるので、階段の付け方に工夫が必要になる。事業後の空間を確認できるように模型を作ってはどうか。

③変化に対応するための想定

- ・事業の進捗により、建物が除却されると裏側の建物が見えるなど、景観が変化する。道路の拡幅事業とあわせて、大森をどのような景観にするのか考える必要がある。
- ・昭和初期に池上通りが拡幅された際に天祖神社の階段の形状が変わったが、今回も同様のことが起きると予想される。道路拡幅により地形的にどのような影響があるか検討した方が良い。
- ・区域内の敷地面積がバラバラなので、池上通りの拡幅後は建物のファサードが連続しないかもしれない。

④区域の検討 | バッファゾーン（緩衝区域）設定など

- ・周辺区域との関係をどうするか。
- ・洗足池地区の景観重点地区では、バッファゾーンを設定している。大森八景坂地区でも設定してはどうか。地形に配慮しながら、時間や空間のスケールを広げられると良いのではないか。
- ・ジャーマン通りのアイストップになるビルなど景観のポイントとなる範囲は対象区域に含めた方が良いのではないか。

⑤高さ方向の誘導の考え方の再検討

- ・色彩基準等は3階と4階で区分されているが、池上通りの現状を踏まえると2階がヒューマンスケールだと感じた

⑥山王の住宅地の趣をデザインに活かす

- ・暗闇坂を歩いて、ガードパイプの色が整備の際に考えられていると感じた。また、擁壁も普通のコンクリート仕上げではなく、コート材に緑を入れていた。階段の登り口だけでもつくり込んだり、山王の住宅の門扉に使われていたデザイン要素を生かすということも考えられる。

⑦公共空間から景観を形成し、民地の誘導につなげる

- ・公共空間は大田区がコントロールできるが、民地の景観は完全に誘導することはできない。デザインコードにどこまで強制力を持たせることができるか。公共が公共空間を頑張って整備することで、民間にも頑張ってもらえるようになる。

⑧周囲を巻き込んでいくプロセスが大切

- ・大森全体を意識した景観づくりの考え方の整理と、当地区の具体的なルールの整理が必要。
- ・大田区との連携やマネジメントが必要になるので、景観計画だけではなく一体のプロジェクトとして取り組む必要があるのではないか。
- ・公共空間(道路・広場等)の検討を通じて地域議論を活性化していきたい。
- ・バッファゾーンを設定し、周囲への共感・共有を広げたい。

